

# 指導事例集

## 国語科

国語科の研究の概要	7
指導事例 1 春日野の姉妹（伊勢物語）	8
指導事例 2 宮に初めて参りたるころ（枕草子）	16
指導事例 3 古典の世界について調べて発表しよう	27
研究を通しての成果と課題	37

## 国語科の研究の概要

従前の学習指導要領では、「A表現」、「B理解」及び〔言語事項〕の2領域1事項で内容を構成していたが、新学習指導要領では、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域1事項に構成が改められた。また、各科目及び領域ごとに言語活動例が示され、言語の教育としての国語科の立場を一層重視した内容になっている。

本研究は「古典」と「古典講読」での実践である。いずれも従前の学習指導要領下での学年を対象とした実践であるが、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を展開した。新学習指導要領によると、前者は「系統的」な教材、後者は「まとまりのある」教材を扱うという点で若干の違いはあるが、いずれも「C読むこと」を重点的に扱う科目であり、「各領域の言語活動を通して」、「古典に親しむ態度を育成する」という点で、共通の目標を持っている。新学習指導要領の「内容の取扱い」にも、「話すこと・聞くこと及び書くことの言語活動を効果的に取り入れるようにする」とある。これを受けて、各事例においては、古典に親しむ態度を育成するために言語活動を取り入れて、指導と評価の工夫に取り組んだ。

また、本研究では、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示された、観点別学習状況の評価の観点である、国語科の5観点（「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」）を参考にして、内容のまとまりごとの評価規準を設定し、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の実践を試みた。指導事例は「古典」「古典講読」に関する実践であるので、「関心・意欲・態度」、「読む能力」、「知識・理解」の3観点を取り上げた。言語活動として取り上げた、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関しては、「国語総合」、「国語表現」、「国語表現」、「現代文」の領域において、独立した単元教材で重点的に指導してその能力を育てるものであるとの立場に立って、ここでは評価の対象としていない。

各事例で扱った単元は次のとおりである。

指導事例1 春日野の姉妹（伊勢物語）

指導事例2 宮に初めて参りたるころ（枕草子）

指導事例3 古典の世界について調べて発表しよう

### < 研究協力員 >

栃木県立藤岡高等学校 教諭 霧林 宏道

栃木県立黒羽高等学校 教諭 小林 紀子

栃木県立喜連川高等学校 教諭 上田 晃

### < 研究委員 >

栃木県総合教育センター 研究調査部 指導主事 吉澤 正光

## 指導事例 1

### 春日野の姉妹（伊勢物語）

#### 1 単元について

「春日野の姉妹」は、中世の風習・生活習慣の中の物語ではあるが、現代に生きる生徒にも共感できる内容の物語である。本単元では、物語を深く味わわせ、古典に親しむ態度を養うために、本話を理解する上で重要とみなされる事項を調べたり、読みを深めたりする活動を取り入れる。また、歌物語の中で和歌の果たす効果や、歌物語の特徴を理解させる指導を行う。

#### 2 単元の指導目標

- (1)漢字や歴史的仮名遣いの読み、基本的な語句の意味、和歌の修辞法等を理解させる。
- (2)登場人物の心情を読み取り、物語の内容を理解させる。
- (3)時代背景や物語の背景を理解させる。
- (4)作品を読み味わい、古典に親しませる。

#### 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
古文の内容を的確に読み取ったり、当時の人々が和歌をどのように活用していたかを考えたりして、古典に親しもうとしている。	漢字・歴史的仮名遣いの読みを理解して音読している。  語句に即して本文の内容のあらましを読み取っている。  古文に描かれた人物の心情を踏まえ、話全体の流れを把握している。	漢字や歴史的仮名遣いの読みを理解している。  語句の意味用法や和歌の修辞法を理解し、語彙を豊かにしている。

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
一	1	<p><b>音読による読みの定着</b></p> <p>教師による「春日野の姉妹」の範読を、漢字・歴史的仮名遣いの読みに注意しながら聞く。</p> <p>教師に続いて、一文ずつ一斉読みを行う。</p> <p>全員起立し、三回音読した者から着席する。</p> <p>指名により、二人で交互読みする。</p> <p>漢字や歴史的仮名遣いの読みの確認のため、小テスト(資料1)を受ける。</p> <p>自己評価を行う。</p> <p>本文をノートに写す。</p>	<p>シラバスで本単元の学習の目標と活動を確認する。</p> <p>注意する漢字や歴史的仮名遣いの読みを、教科書に書き込ませる。</p> <p>全体が音読できているか確認しつつ読ませる。</p> <p>教員自身も音読しながら、机間指導を行う。</p> <p>練習の様子を参考にして二名を指名し、一文ごとに交互に音読させる。</p> <p>教科書、ノートを閉じさせ読みの確認テストを行う。</p> <p>* つまづきを確認して助言を与えながら学習プリントで復習させる。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>漢字・歴史的仮名遣いの読みを積極的に身に付けようとしている。</p> <p>(自己評価票資料1)・観察)</p> <p>知識・理解</p> <p>漢字・歴史的仮名遣いを正しく理解している。</p> <p>(小テスト資料1)</p>
二	2 3	<p><b>内容理解</b></p> <p>指名により音読する。</p> <p>脚註・古語辞典を使って逐語訳を行い、ノートを整理する。</p> <p>序詞を理解する。</p> <p>口語訳中心の小テスト(資料2)を受ける。</p> <p>自己評価を行う。</p>	<p>前時の小テスト・自己評価票に口答で助言を添えて返却する。</p> <p>本時の目標と活動を説明して確認させる。</p> <p>脚註と古語辞典を使って本文を現代語訳させる。</p> <p>「序詞」などの言葉の持つ面白さに関心を持たせる。</p> <p>* つまづきを確認して助言を与えながら学習プリントで復習させる。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>脚註や辞書を手掛かりに、内容理解に努めようとしている。</p> <p>(自己評価票資料2)・観察)</p> <p>知識・理解</p> <p>脚註と辞書を活用し、古語の意味や序詞を理解している。</p> <p>(小テスト資料2)</p>
三	4	<p><b>全体内容把握</b></p> <p>指名により音読する。</p> <p>全体の内容理解のため、ワークシート(資料4)により、物語の各場面を描いた6枚の絵を、本話の内容に沿って並べ替え、本文を書き添える。</p> <p>指名により発表させる。</p> <p>自己評価を行う。</p>	<p>前時の小テスト・自己評価票に口答で助言を添えて返却する。</p> <p>本時の目標と活動を説明して確認させる。</p> <p>本文に沿って並べ替え、絵に該当する本文を書き添えさせる。</p> <p>発表させた後、回収する。</p> <p>* 助言により本文を一文ずつ区切って考えさせる。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>全体の流れを理解して、読み味わおうとしている。</p> <p>(自己評価資料3)・観察)</p> <p>読む能力</p> <p>物語の展開を把握して本文を書き添えている。</p> <p>(ワークシート資料4)</p>

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
四	5 6	<p><b>調べ学習</b></p> <p>文中の古典に関する語句を、『百科事典』『国史大辞典』やインターネットを使って調べる。調べたことを発表する。自己評価を行う。</p>	<p>前時の自己評価に口答で助言を添えて返却する。</p> <p>本時の目標と活動を説明して確認させる。</p> <p>生徒に主体的に班分けさせる。</p> <p>「初冠」「平城京」「春日の里」「狩衣」「信夫摺り」の項目を、各班に選ばせる。</p> <p>下書き用ワークシートに書かせた後、発表用ワークシートに清書させる。</p> <p>* 資料の提示や助言をする。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>与えられた項目を多岐に渡って調べようとしている。 (自己評価資料3・観察)</p> <p>読む能力</p> <p>発表するために、辞典・インターネットを利用し時代背景・風習などを読みとっている。 (ワークシート資料5)</p>
五	7	<p><b>本話の題名をつける</b></p> <p>題名に込められた意図に関して教師の説明を聞く。</p> <p>「春日野の姉妹」以外の題名を考えて紙に書く。一人ずつ自分のつけた題名を読み上げ、板書する。投票により一番良いものを選ぶ。選ばれた生徒は題名について解説する。教師のコメントを聞く。</p>	<p>前時の自己評価に助言を書き添えて返却する。</p> <p>本時の目標と活動を説明して確認させる。</p> <p>思い付いた紙に書き、その中から自分が一番良いと思うものを発表させる。</p> <p>板書されたものの中から良いと思われるものを選んで投票させ、上位数点を選出する。</p> <p>選出された題名を考えた生徒に題名についてを解説させる。</p> <p>選ばれたものや、その他の題名に関してコメントする。</p> <p>* 助言により文中から根拠を探させる。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>本文を読み味わい、内容を効果的に表す題名を考えようとしている。</p> <p>読む能力</p> <p>古文に描かれた人物の心情を踏まえ、話全体の流れを把握している。 (ワークシート資料6・自己評価資料3・観察)</p>

## 5 成果と課題

### (1) 成果

#### 指導法の改善

古典に親しませるという指導目標を達成するために、第4時で絵を取り入れた指導や、第7時で「読書へのアニマシオン」(作戦11「これが私のつけた書名」)を活用した指導を行ったことにより、訳読中心の指導からの改善を図った。生徒は学習活動毎に明確な目標を持つことができ、その実現のために主体的に学習に取り組んだ。

#### 生徒の学習に取り組む態度の改善

課題を持って調べる活動を取り入れたことで、学習活動の目標や内容が具体的になり、生徒が主体的に学ぶようになった。また、絵や「読書へのアニマシオン」等を取り入れた学習場面では、生徒はより意欲的に学習に取り組むようになった。

#### 評価規準を生かした形成的評価による語句の読みの定着

「知識・理解」の評価規準である「漢字、歴史的仮名遣いを正しく理解している」状況に導く指導を行った。第1時「音読による読みの定着」で、目標の確認、音読の指導、読みの評価(資料1)という流れで、基礎的な読みの定着を図った。第二次でも読みの評価(資料2)を繰り返した。さらに定期テスト前にも小テスト等での復習を促した。これらの指導の結果、評価規準に対して、概ね満足と判断できる状況が達成できた。

#### 第2学期中間試験から

問題(解答)	正答率
初冠(ういこうぶり)	77.8%
往に(いに)	61.1%
垣間見(かいまみ)	77.8%
思ほへず(おもおえず)	66.7%
狩衣(かりぎぬ)	83.3%
裾(すそ)	72.2%
信夫摺り(しのぶずり)	66.7%
春日野(かすがの)	88.9%
ゆゑに(ゆえに)	83.3%

### (2) 課題

#### 指導計画及び評価計画の見直し

「知識・理解」の評価規準、「語句の意味用法や和歌の修辞法を理解し、語彙を豊かにしている」ことの達成状況は充分ではなかった。特に「序詞」を理解させることに関しては、なお指導の工夫が必要である。また、歴史的仮名遣いを1箇所含む「ゆゑに」(83.3%)や、2箇所含む「思ほへず」(66.7%)が示すように、基本的な歴史的仮名遣いの読みの指導の必要性が改めて浮き彫りになった。このような点に関して今後の指導計画や評価計画を見直す必要がある。

#### 評価の方法、場面、時期の工夫

生徒の自己評価は、その結果を教師が把握して指導の改善に生かすだけでなく、生徒に助言や励ましとしてフィードバックすることによって、生徒自身の学習意欲を高めるためにも生かされることが大切である。本単元では、全7時間のうちに自己評価の場면을5回設けたが、生徒へのフィードバックによる自己評価の活用が不十分になってしまった。無理なく評価を行うためには、効果的な評価の場面や時期を工夫し重点化したうえで設定する必要がある。また、自由記述式の自己評価や、生徒同士で良い点を認め合うような相互評価(資料7)などの工夫も大切であろう。

## 参考文献

- ・M・M・サルト 『読書へのアニマシオン75の作戦』 柏書房
- ・コミグラフィック 日本の古典3 『伊勢物語』 暁教育図書株式会社



## 自己評価票 1

資料3

年 組 番 氏名					
1	授業に遅れずに参加した。	A	B	C	D
2	教科書・ノートをそろえて授業に臨んだ。	A	B	C	D
3	絵と本文の対応を理解しようと努めた。	A	B	C	D
4	物語の展開を把握して、本文を書き添えた。	A	B	C	D
5	先生の説明を良く聞いて理解に努めた。	A	B	C	D
6	発問に対し、自分で考えようとした。	A	B	C	D
7	絵によって内容の理解が深まった。	A	B	C	D
8	物語に親しみが持てた。	A	B	C	D
本時間の感想					

A = あてはまる B = 大体あてはまる C = あまりあてはまらない D = あてはまらない

## 自己評価票 2

年 組 番 氏名					
1	授業に遅れずに参加した。	A	B	C	D
2	教科書・ノートをそろえて授業に臨んだ。	A	B	C	D
3	積極的に図書で調べた。	A	B	C	D
4	積極的にインターネットで調べた。	A	B	C	D
5	友達の意見を良く聞いて理解に努めた。	A	B	C	D
6	内容を自分で考えようとした。	A	B	C	D
7	メモをしっかりと取った。	A	B	C	D
8	調べた内容がわかった。	A	B	C	D
本時間の感想					

A = あてはまる B = 大体あてはまる C = あまりあてはまらない D = あてはまらない

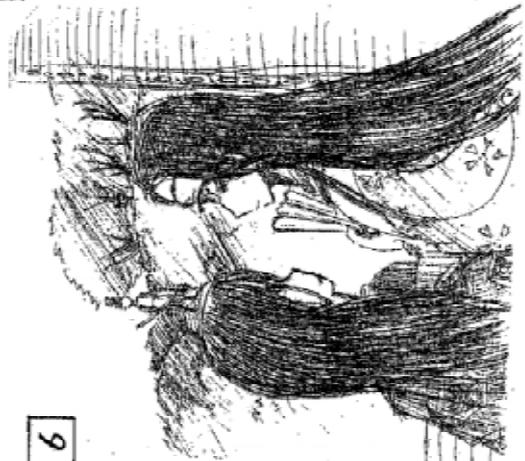
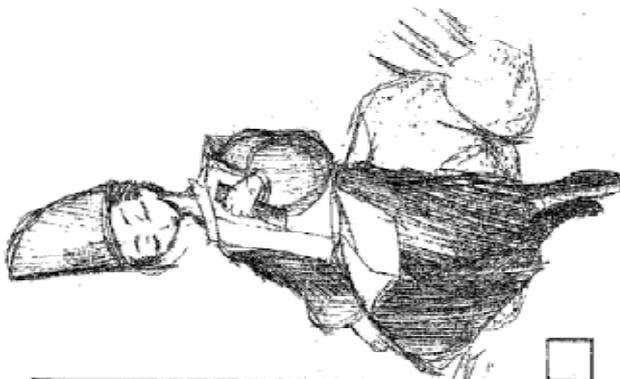
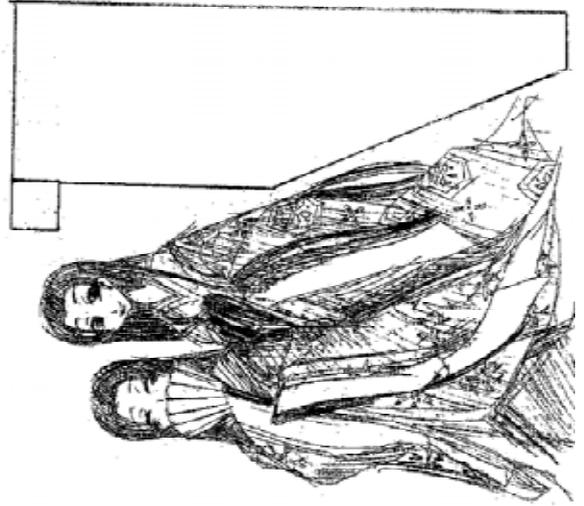
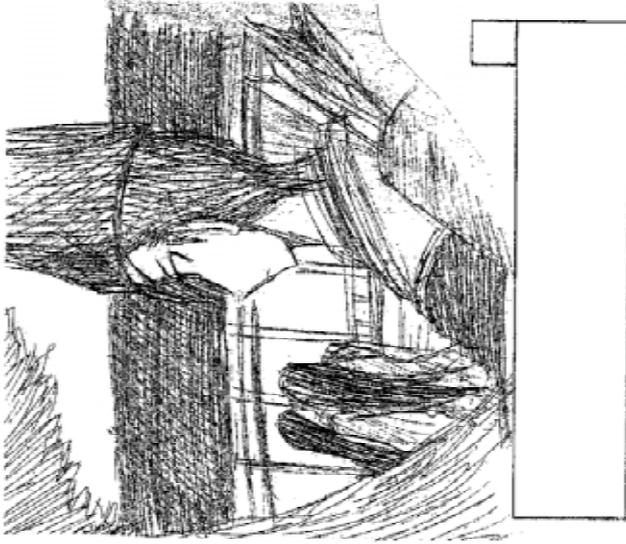
## 自己評価票 3

年 組 番 氏名					
1	授業に遅れずに参加した。	A	B	C	D
2	教科書・ノートをそろえて授業に臨んだ。	A	B	C	D
3	先生の説明を良く聞いて理解に努めた。	A	B	C	D
4	積極的に題名を考えた。	A	B	C	D
5	他者の考えた題名とその説明を聞いて考えが深まった。	A	B	C	D
6	「春日野の姉妹」を読み味わえた。	A	B	C	D
本時間の感想					

A = あてはまる B = 大体あてはまる C = あまりあてはまらない D = あてはまらない

\* 本来の「関心・意欲・態度」を見る自己評価は、「国語への関心・意欲・態度」のことであるから、学習活動の内容に関して評価するものである。従って、資料3・4・5の自己評価票の、それぞれ3番以下について問うのが一般的であり、大切なことである。ここでは、生徒の実態に合わせて、授業を受ける心構えも生徒に意識させた。

次の六つの絵は、「春日野の姉妹」の内容を六つに分けて描いたものです。それぞれの空欄に2、5の番号と、教科書の本文を書きなさい。



資料5

調べてみよう！

( ) ( ) 班 班員

調査項目

調べた内容  
本・辞書類から(出典も記す)

インターネット(アドレスも記す)

資料6

( ) ( ) 年 ( ) ( ) 組 ( ) ( ) 番 氏名 ( )

「春日野の姉妹」以外の題名を付けるとしたら、どのような題名を付けますか。題名とその理由を簡潔に書きなさい。

題名

理由

資料7

相互評価の例

相互評価票 ( ) ( ) 年 ( ) ( ) 組 ( ) ( ) 番 氏名 ( )

板書された題名の中で、あなたが一番良いと思う題名と、その理由を書きなさい。

題名

理由

## 指導事例 2

### 「宮に初めて参りたるころ」(枕草子)

#### 1 単元について

講義形式で本文の読解に多くの時間を費やす指導に偏ってしまうと、生徒の古典に対する苦手意識を助長しかねない。本単元では、基礎・基本を定着させる指導を実施した上で、生徒の主体的な活動を促す言語活動を取り入れて指導する。

『枕草子』の中の「日記的章段」は、当時の中宮定子を中心とした後宮の雰囲気や様子を伝える資料にもなっている部分である。時代背景を理解させるとともに、中宮定子との交流を通して表現されている作者のものの見方、感じ方を読み取らせ、作者の人間像に親しませたい。

#### 2 単元の指導目標

- (1)漢字や歴史的仮名遣いの読み、「枕草子」の時代背景、基本的な語句の意味や語法等を理解させる。
- (2)登場人物の行動の意図を考えたり、宮廷生活の様子や登場人物同士の心の交流を本文から読み取らせたりして、作品を読み味わわせる。
- (3)作者の立場で自己紹介文を書くことを通して、作品をより深く鑑賞させる。

#### 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
清少納言と中宮の交流の様子から、二人のものの見方、感じ方、考え方を読み取るうとしている。	表現の特徴に注意して、作者の思いを考えながら効果的に音読している。  叙述に即して文章の内容をおおむね読み取っている。  文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文や文章の組立、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かにしている。  時代背景や宮廷生活の様子を知り、清少納言と中宮の交流を理解している。

## 4 指導と評価の計画 (全7時間)

\* 努力を要する生徒への手立て

次	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
一	1	作品の成立と作者についての理解 『枕草子』の成立年代や内容、作者清少納言の人物像を、便覧等で確認しながら整理する。	シラバスで本単元の学習の目標と活動を確認する。 ワークシートによって確認すべき項目を示す。 * 資料とワークシートとの対応について助言する。	知識・理解 資料を的確に読み取り、内容を理解している。 (ワークシート資料1)
二	2 3 4	本文の内容理解 本文を教師の範読に続いて音読する。  段落ごとに本文をノートに写し、口語訳をノートに書く。  辞書や教師の解説を参考にして、基本的な語句や語法を理解する。	歴史的仮名遣い等、読み誤りやすい部分は注意を促しながら範読する。 * 助言により読みを確認させる。 脚註や辞書を参考にして口語訳をさせる。 * 辞書の使い方や、本文と脚注の対応について助言する。	読む能力 漢字や歴史的仮名遣いを正しく発音して読み通している。 (観察)  読む能力 本文を正しく読み取り、本文に沿って口語訳をしている。 (ノートの記入状況・観察)
三	5  6	5 全体の内容理解 前時までの学習内容の理解度を小テストで確認する。  これまでの学習への取り組みを振り返って、自己評価票に記入する。  6 本文中の会話の部分を抜き出し、誰が誰に対してどのような場面で言った言葉か考える。	まず自力で解かせ、次に教科書・ノート等を参照させ、理解できている所とできていない所を確認させる。 * ノートの見直しと小テストの復習を促す。  小テストの結果とこれまでの学習への取り組みを振り返らせる。 * 面接により学習の方法等を助言する。  ワークシート(資料4)を使って生徒個人に考えさせた後、発表させる。 * 口語訳を示し、内容理解を助ける。	知識・理解 本文中の語句の読みや意味・用法が理解できている。 (小テスト資料2自己採点)  関心・意欲・態度 作品からものの見方、感じ方、考え方を意欲的に読み取り、心情を豊かにしようとしている。 (自己評価票資料3)  関心・意欲・態度 本文中の会話の部分から中宮と清少納言との交流の様子を読み取り、読み味わおうとしている。 読む能力 本文の内容が正確に読み取れている。 (ワークシート資料4)
四	7	内容理解の確認 これまでの学習内容を踏まえ、清少納言の立場で400字程度の自己紹介文を書く。(資料5)	宮廷生活の様子や中宮との交流など、具体的な内容を挙げ、わかりやすい文章になるよう指示する。 * 口語訳を示し、本文の内容を再確認させる。	読む能力 本文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取り、自己紹介文に生かしている。 (自己紹介文)

## 5 評価規準と評価方法に対する判断基準

「評価規準」は、何をもとにして判断するかという根拠を示すのに対し、「判断基準」は、どの程度まで達成しているかという判断の根拠を示す。「目標に準拠した評価」として示された評価が客観的なものになるように、この判断基準をもとに評価するものである。前ページ「4 指導と評価の計画」中の評価規準は、判断基準のB「おおむね満足できると判断される」状況を表す。なお、ここでは、「努力を要する状況」を表すCの判断基準に代えて、「『努力を要する』生徒への指導の手立て」を記す。

学習活動	評価規準と評価方法	判断基準		
		十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	(C)「努力を要する」 生徒への指導の手立て
作品の成立と作者についての理解	知理 - ワークシート	資料を正確に読み取り、ワークシートに記入している。	資料を読み取り、ワークシートにおおむね記入している。	資料とワークシートとの対応について助言する。
本文の内容理解	読 - 観察	漢字や歴史的仮名遣いの読みや、古語の意味の切れ目を理解して調子よく音読している。	漢字や歴史的仮名遣いを正しく発音して読み通している。	助言により読みを確認させる。
	読 - ノートの記入・観察	動作の主体や、助詞等を補い、文脈に即して口語訳している。	脚註や辞書等を手掛かりに、前後の関連を考えながら文脈に即しておおむね口語訳している。	辞書の使い方や、本文と脚注の対応について助言する。
全体の内容理解	知理 - 小テスト	本文中の語句の読みや意味・用法がほとんど正しく理解できている。	本文中の語句の読みや意味・用法がおおむね理解できている。	ノートの見直しと小テストの復習を促す。
	関意態 - 自己評価票	Aが4つ以上あり、C・Dがない。	A・Bが合わせて4つ以上あり、Dはない。	面接により学習の方法等を助言する。
	関意態 - ワークシート	本文の会話の部分から、中宮と清少納言の交流の様子を読み取り、読み味わおうとしている。	本文の会話の部分から、中宮と清少納言の交流の様子をおおむね読み取り、理解しようとしている。	口語訳を示し、内容理解を助ける。
	読 - ワークシート	本文の内容が正確に読み取れている。	本文の内容がだいたい読み取れている。	口語訳を示し、内容理解を助ける。
内容理解の確認	読 - 自己紹介文	本文の内容を的確に読み取り、紹介文を書いている。	本文の内容を大体読み取り、紹介文を書いている。	口語訳を示し、本文の内容を再確認させる。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

ワークシートや形成的評価による学習内容の定着及び指導の改善

第1時「作品の成立と作者についての理解」の指導では、資料を活用してワークシートにキーワードを記入させることで、学習内容の定着を図った。ワークシートは定期テスト前の家庭学習にも活用され、テスト(資料7)ではこの部分に関する設問の正答率(資料8)が77%に達した。

第2～4時「本文の内容理解」は、前述した一般的な読解の指導である。通常はこの基礎的な指導で単元を終了することが多いが、さらに理解を深めさせるために、第5～6時「全文の内容理解」のための指導として、小テスト、自己評価、会話文に注目した指導を行った。まず、本文中の語句の読みや意味・用法の理解状況を、小テストを用いて生徒自身に把握させた。これにより、何がわかって何がわからないのかを明確に認識させることができ、漠然とわからないという状態を解消させた。そして、理解が不足している点について、生徒の実情に応じて指導助言を行った。小テスト終了後には、それまでの学習への取り組みを振り返らせ自己評価をさせた。また、定期テスト前にも小テストを家庭学習での復習に活用するよう指導した。これらによって、学習内容の定着度(資料8)が向上した。指導者自身も、それまでの指導の成果を小テストを通して振り返り、その後の指導に生かすことができた。

古典に親しませる指導の工夫

古典に親しませるために、第6時では、『読書へのアニメーション75の作戦』の中の、「作戦54 だれが、だれに、何を？」を用いて、会話文に注意して読みを深める指導を行った。第7時では、単元のまとめとして、清少納言の立場で自己紹介文を書くという、言語活動としての「書くこと」の指導を取り入れた。

### (2) 課題

評価方法の工夫

第7時の「清少納言の立場での自己紹介文」については、例えば班内で作品を互いに読み合っ、良い点や改善点等について意見や感想を交換する相互評価(資料6)の場面を取り入れると、さらに読みが深まるであろう。また、秀作を数点選んでプリントして配布し、同様に相互評価させてもよい。

評価問題の工夫・改善

単元終了後の定期テストの出題方針は、指導内容を踏まえ、目標に準拠した評価ができることとした。学習活動としては思考力を問う活動も取り入れ、それを踏まえた既習事項としての出題形式としたが、結果的には、「思考」によってよりも、「知識・理解」を踏まえて解答する設問の方が多かった。思考力を問う問題の工夫が引き続き今後の課題である。

また、テストで正答率の低かった、古語の意味を記述させる設問については、出題方法の検討を要する。

## 参考文献

- ・ M・M・サルト 『読書へのアニメーション75の作戦』 柏書房
- ・ 橋本 治 『桃尻語訳枕草子』 河出書房新社
- ・ 北尾倫彦・金子 守編集 『平成14年版中学校国語 観点別学習状況の新評価基準表』 図書文化社

資料1

清少納言と『枕草子』について

( )年( )組( )番 氏名( )

清少納言について

父は [ ]。後撰和歌集の選者。学者歌人の家柄。

十六、七歳のとき [ ]と結婚。男子出産。

( )世紀末の( )年

夫と別れ、関白 [ ]の長女で [ ]天皇の

中宮であった [ ]のようなく出仕。

清少納言( )歳、中宮( )歳の時のこと。

( )について深い教養があった。

当時ライバル関係の [ ]から、「オをひけらかす」と批判されている。

( )はあまり得意ではなかった。

中宮の死去とともに宮中を去り、晩年の生活は明るくものではなかったといわれる。

『枕草子』について

『枕草子』の成立は( )時代中期。( )文学の祖といわれる。

内容は約三百の章段からなっており、内容上三種類に分けられる。

- [ ] 的章段      ものづくし。  
「虫は」「すそまじきもの」
- [ ] 的章段      自然や人事の美的世界を描いたもの。  
「春は晴」「九月ばかり」
- [ ] 的章段      十年にわたる宮仕え生活を描いたもの。  
「雪のいと高つ降りたるを」「宮に初めて参りたるころ」

人事や自然を、当時としては新鮮な感覚や機知でとらえ( )の文学といわれる。



## 自己評価票（実際に使用したシートに、回答数、自由記述の記載例を書き加えた。）

年 組 番 氏名	
1 教科書をよく読んだ。	A 1人 B 7人 C 2人 D 0人
2 本文をノートに写した。	A 8人 B 2人 C 0人 D 0人
3 口語訳をノートに書いた。	A 8人 B 2人 C 0人 D 0人
4 口語訳をノートに書きながら内容の理解に努めた。	A 3人 B 3人 C 1人 D 3人
5 発問に対し、自分で考えようとした。	A 5人 B 4人 C 1人 D 0人
6 授業の内容がわかった。	A 1人 B 5人 C 1人 D 3人
反省及び今後の学習への抱負	
・あまり集中していない時があった。      ・まじめにがんばります。 ・今まで以上にがんばります。      ・もっとゆっくり授業を進めて欲しい。 ・もっと教科書を読んで漢字の読み方がわかるようにしたい。 ・内容がわかると楽しいからこれからがんばる。	

A あてはまる    B だいたいあてはまる    C あまりあてはまらない    D あてはまらない

ほとんどの生徒はノートにきちんと口語訳を書いてはいるが、それが精一杯で内容を理解するには至っていない。小テストの結果が不十分だった生徒や、自己評価にCとDを付した生徒など、指導の必要がある生徒には、ノートの見直しと小テストの復習を促した。また、自由記述欄にある生徒の要望を取り入れて、その後の授業での説明や助言をより丁寧にするよう心掛けた。

なお、上の自己評価票の6の項目については、授業の内容の理解が不十分な生徒（CとD）が10人中4人いたが、この自己評価からだけではどの学習内容がわからなかったのか具体的には把握できない。学習活動の内容のまとめりに自己評価させ、よりの確に学習の状況を把握するためには、次のように学習活動を明らかに示した項目で確認する方法が有効と考えられる。生徒の学習状況の到達度は、ペーパーテストによっておおよそ判断できるが、自己評価によってどこがわからないかを生徒に自覚させて、助言によって主体的な学びに導くことも大切である。



(改善案)

## 自己評価票

年 組 番 氏名	
1 清少納言の人物像を理解した。	A B C D
2 「枕草子」の成立の背景を理解した。	A B C D
3 漢字や歴史的仮名遣いを正しく読めるようになった。	A B C D
4 口語訳をノートに書きながら内容の理解に努めた。	A B C D
5 語句の意味や用法を理解した。	A B C D
6 「枕草子」に対する関心が深まった。	A B C D
感想（C・Dを付けた場合は、その理由も書いてください。）	
----- ----- -----	

A あてはまる    B だいたいあてはまる    C あまりあてはまらない    D あてはまらない

資料 4

館に初めて参りたるころ ( )年( )組( )番 氏名( )

次の会話文は、誰が誰に対してどのような場面で言った言葉か。

「これは、とあり、かかり。それが、かねが。」

が  に

場面

「葛城の神もしばし。」

が  に

場面

「これ、放たせ給へ。」

が  に

場面

「まな。」

が  に

場面

「下りまほしつなりにたらぬ。せらば、はや。夜せりせしへ。」

が  に

場面

「今日はなほ参れ。雪に曇りてあらはにもあるまじ。」

が  に

場面

「見苦し。そのみやは籠りたらむとする。あくなきまで御前許されたるは、せおほしめすせいに  
そあらめ。思ふにたがふはにくきものぞ。」

が  に

場面

## 自己紹介文の例（生徒作品）

私は清少納言です。年は二十八歳。今から十一、二年前の十六、七歳の時に橋則光といふ人と結婚し、男の子を出産しました。お前は則長、て言うんですよ。そよから、夫の橋則光とは別木、閑白の藤原道隆様の長女で、兼天皇の中宮であつた定子様の所へ出仕するようになったりました。私の性格は、恥ずかしがりやで内気で、定子様の前では気後太してしまふんです。だから、初めて定子様の所に行つたころは、お身に取ずかしいことがたくさんあつて泣きたいほどでした。でも、定子様は私にとおもてを遣つてくれて優しい人なんです。そして私のことをとても高く評価してくれておられます。素敵な人です。私は定子様のところに来ておかつたです。そよからお定子様とは仲よくやつていきたいと思つています。おつと官中にも慣れたら、楽しくやつていけそうです。そんなところで私の自己紹介は終わりにします。私のこと、あが、てもらえましたが・・・。

## 資料6

## 相互評価票

評価者（ ）（班 氏名）

クラスメートの名前（ ）

（さん）

感心したところ（特に、「本文に描かれた人物像、情景、心情などが自己紹介文に生かされているか」という観点で評価してみよう。）

疑問・質問

\* 学習集団によっては、「こうすればもっと良くなる」という項目を設けて改善案を出させるなどして、意見や感想を交換させることで、自分の作品を推敲させる方法も考えられる。

資料7

評価問題

□ 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

宮に初めて参りたるころ、ものゝ恥つかしきことの数知らず、涙も落ちぬべければ、夜々参りて、三尺の御几帳の後ろにさぶらぶに、絵など取り出でて見せさせ給ひを、手にてもえさし出づまじつわりなし。「これは、とあり、かかり。それがかれが。」などのたまはず。<sup>b</sup>高坏にまゐらせたる御殿油なれば、髪<sup>c</sup>の筋なども、なかなか昼よりも鬮証に見えてまばゆけれど、<sup>d</sup>愈じて見なとす。いと冷たきころなれば、さし出でさせ給くる御手のほつかに見ゆるが、いみじつ伺ひたる薄紅梅なるは、限りなくめでたしと、見知らぬ里人心地には、<sup>e</sup>かかる人こそは世におほしましけれと、驚かるまでそまもり参らする。<sup>d</sup>暁にはとく下りなむと急がる。「<sup>f</sup>葛城の神もしばし。」など仰せらるるを、いかでかはすちかひ御覽せられむとて、なほ伏したれば、御楯もまゐらず。<sup>f</sup>女官ども参りて、「これ、放たせ給へ。」など言ふを聞きて、女房の放つを、「まな。」と仰せらるれば、笑ひて帰らぬ。

ものなど問はせ給ひ、のたまはするに、久しつなりぬれば、「下りまほしつなりにたらむ。さらば、はや。夜ざりはとく。」と仰せらる。

<sup>g</sup>ぬざり帰るにや遅きと上げ散らしたるに、雪降りにけり。登花殿の御前は立て部近くてせはし。雪いとをかじ。屋つかた、「今日はなほ参れ。雪に曇りてあらはにもあるまし。」など、たびたび召せば、この厨の<sup>h</sup>主も、「見哲し。ぞのみやは籠りたらむとする。あくなきまで御前許されたるは、<sup>i</sup>おおほしめすやつこそあらめ。思ふにたがふはにくきもので。」と、ただ急がしに出だしたつれば、あれにもあらぬ心地すれど、参るぞいと苦しき。火焼屋の上に降り積みたるもめつらしつをかじ。

御前近くは、例の炭櫃に火こちたくおこして、それにはわざと人もあず。<sup>k</sup>上臈御まかなひにさぶらひ給ひけるままに、近づぬ給へり。沈の御火桶の梨絵したるにおはします。次の間に長炭櫃にひまなくみたる人々、<sup>l</sup>唐衣にき垂れたるほどなど、馴れやすらかなるを見るも、いとつらやまし。御文取り次ぎ、立ち居、行を違ふさまなどのつつまじげならず、もの言ひ、笑わらふ。<sup>l</sup>いつの世にか、ちやつに交しらひならむと思ふそくそつつまじき。興寄りて三、四人さしつどひて絵など見るもあめり。

- 問一 傍線部 a } I の漢字の読みを現代仮名遣いで書きなさい。
- 問二 傍線部 ア 「宮」とは何のことが答えなさい。
- 問三 傍線部 ㄱ } を現代語訳しなさい。
- 問四 傍線部 イ 「伺ひたる」は現代で使われている「伺つ」とは違つ意味である。どのような美しさを指つのか、答えなさい。
- 問五 傍線部 ウ 「かかる人」とは誰のどのような様子を言っているのか、答えなさい。
- 問六 傍線部 エ 「葛城の神もしばし」について、  
 (1) 「葛城の神」の読みを現代仮名遣いで書きなさい。  
 (2) 「葛城の神」とはどのような神か、答えなさい。  
 (3) 「葛城の神もしばし」を省略されている語を補つて現代語訳しなさい。  
 (4) これは誰が誰に対してどのような場面で言った言葉か、答えなさい。
- 問七 傍線部 オ 「まな」について、  
 (1) 現代語訳しなさい。  
 (2) これは誰が誰に対してどのような場面で言った言葉か、答えなさい。  
 (3) この言葉からこの言葉を言った人のどのような人柄が想像されるか、答えなさい。
- 問八 傍線部 カ 「ぬざり帰る」とはどのようにすることが、答えなさい。
- 問九 傍線部 キ は「そのようにお思いになるわけがあるのでしょうか」という意味である。「そのように」とはどのようなのか、答えなさい。
- 問十 傍線部 ク 「いつの世にか」とあるが、作者はどのようにになりたいと願っているのか、答えなさい。

□ 「枕草子」の作者について述べた次の文章の空欄に適する語を入れなさい。ただし A・B・C・D・F は人名を記し、E・G は後の語群から選びなさい。

作者（ A ）の父は清原元輔で、後撰和歌集の撰者である。代々学者歌人の家柄であつた。十六、七歳の時に結婚して男子を出産したが、その後夫と別れ、閨白（ B ）の長女で（ C ）天皇の中宮であつた（ D ）のところへ出仕した。（ E ）について深い教養があり、当時タイハル關係の（ F ）から、「才をひけらかす」と批判されている。父や曾祖父の得意だつた（ G ）はあまり得意ではなかつた。中宮の死去とともに宮中を去り、晩年の生活は明るいものではなかつたといわれる。

- |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 絵画 | 書道 | 漢籍 | 和歌 | 茶道 | 華道 |
|----|----|----|----|----|----|

資料 8

評価問題の正解率と分析結果

指導時間

問一	a	90%	b	90%	c	100%	d	90%	e	100%	f	70%		
	g	80%	h	80%	i	90%	j	100%	k	40%	l	40%		
問二	ア	100%												
問三					90%				70%					
					80%				50%					
					30%				30%					
					60%				30%					
					30%				20%					
					30%				50%					
					20%									
問四	イ	80%												
問五	ウ	30%												
問六	(1)	90%		(2)	50%									
	(3)	40%												
	(4)	誰が	100%		誰に	90%			場面	70%				
問七	(1)	90%												
	(2)	誰が	60%		誰に	80%			場面	80%				
	(3)	人柄	80%											
問八	カ	50%												
問九	キ	30%												
問十	ク	50%												
問十一	A	100%		B	30%			C	80%			D	80%	
	E	80%		F	90%			G	80%					

分析結果

- 問一 読みの問題（知識・理解） 全平均81%。k「<sup>じょうろう</sup>上臈」、l「<sup>からぎぬ</sup>唐衣」が各40%と低く、なお指導の余地はあるが、全体的には良好な結果である。小テストで形成的評価を行った効果と思われる。
- 問三 古語の意味を記述する問題（知識・理解） 全平均45%。指導の工夫及び出題方法の工夫が必要である。
- 問五、問六（2）・（3）、問八、問九、問十（主に読む能力）の正解率が低い。いずれも授業中に指導したが、ワークシート等には同じ設定で記入する項目がなかったため、正解率が下がったと思われる。こうした実態を踏まえて、ノートを取り方の指導や、ワークシートの工夫に生かすべきことが明らかになった。
- 問六、問七は第六時の指導を踏まえた問題（読む能力）である。全11問の平均は75%であり、全体としては良好な結果である。
- 文学史の問題 全平均77%。B（正解「藤原道隆」）のみ30%と低いですが、全体的によくできている。ワークシートでの指導の効果により、学習内容の定着が図られたものと思われる。

全て指導の結果を踏まえて出題した。生徒も学習の成果を概ね発揮できたようである。一部に正解率の低い問題もあったが、分析の結果明らかになった課題を、今後の指導に生かすことで指導と評価の一体化を図りたい。

## 指導事例 3

## 古典の世界について調べて発表しよう

### 1 単元について

第1学期終了時に生徒に授業評価アンケート(資料1)を行ったところ、「今後、授業で教えて欲しいこと・学びたいと思うこと」という項目で、敬語、婚姻、人々の生活、物の怪、より多くの作品を学びたい、などの回答が数多く出された。そこで、生徒が疑問を持ったことや、興味・関心を持ったことについて、「関連する文章や作品を調べたり読み比べたりする」などして、自分自身で調査・考察し、発表することが、内発的動機をさらに高め、「生涯にわたって古典に親しむ態度を育てること」につながると考え、第2学期に本単元を設定した。

新学習指導要領における「古典講読」は、まとまりのある古典を読み味わうとともに、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすることや古典の現代語訳などを適切な範囲で取り上げることなどによって、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることを目指している。このように「古典講読」は、生徒の実態や興味・関心に応じて発展的な学習を展開しやすい科目である。

### 2 単元の指導目標

- (1) 班毎に研究テーマについて話し合わせ、テーマを設定させる。
- (2) テーマに応じた資料を集めて必要な情報を読み取らせ、調査、考察内容を的確にまとめさせるなどして、テーマについての考えを深めさせる。
- (3) 他の班の発表の資料の内容を的確に読み取らせ、発表をよく聞いて自分の考えを深めさせる。

### 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
疑問・興味・関心を持ったことについて、自ら進んで調べ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	資料の内容を叙述に即して読み取っている。  資料から必要な情報を読み取り、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。	古典の理解に役立てるための資料を調べ、その内容を理解し、知識を身に付けている。

### 4 指導と評価の計画(全6時間)

\* 努力を要する生徒に対する手立て

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
一	1	単元のテーマ、学習目標、学習内容、評価の観点等を理解する。 グループ分けをする。 考察するテーマを設定する。 自己評価する。	積極的に意見を述べさせ、活発に話し合わせる。 適切なテーマを設定させる。 テーマ設定の理由を明確にさせる。 * 授業中の助言、授業後の面接。	関心・意欲・態度 積極的に話し合いに参加し、テーマを設定しようとしている。 (学習プリントの記入状況 ・自己評価カード資料2 ・観察)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
二	2 〜 3	<p>テーマに応じた資料を図書資料やインターネットから収集し、必要な情報を選択し、考察した内容を的確にまとめる。 テーマについての考えを深める。 自己評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【テーマ】 平安時代の恋愛と婚姻物の怪 名前 敬語 平安時代の衣食住 言葉</p> </div>	<p>前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 テーマに応じた資料を収集させる。 テーマに応じた資料から必要な情報を読み取らせ、調査、考察内容を的確にまとめさせる。 テーマについての考えを深めさせる。 * 授業中の助言、資料の例示、授業後の面接。</p>	<p>関心・意欲・態度 テーマに応じた調査、考察をしようとしている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票[資料2]・観察)</p> <p>読む能力 テーマに応じた資料から必要な情報を読み取り、調査、考察内容を的確にまとめている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票[資料2]・観察)</p> <p>知識・理解 調査、考察内容を理解し、テーマについての考えを深めている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票[資料2])</p>
三	4	<p>読み取った情報を的確に活用し、レジюме(資料5)・発表原稿を作成する。 自己評価する。</p>	<p>前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 読み取った情報を的確に活用させ、レジюме・発表原稿を適切にまとめさせる。 レジюме・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをさせ、まとめ方を工夫させる。 * 授業中の助言、授業後の面接。</p>	<p>関心・意欲・態度 読み取った情報を的確に活用し、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。 (自己評価票[資料2]・レジюме・発表原稿・観察)</p>
四	5	<p>他の班の発表をよく聴き、レジюмеの内容を的確に読み取って、古典の世界に関する理解を深める。 自己評価する。</p>	<p>前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 他の班の発表をよく聴かせ、レジюмеの内容を的確に読み取らせ、自分の考えを深めさせる。 * 授業中の助言、授業後の面接。</p>	<p>読む能力 他の班の発表をよく聴き、レジюмеの内容を的確に読み取り、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。 (レジюмеへのメモ記入状況・自己評価票[資料2]・観察)</p>
五	6	<p>レジюмеの内容を的確に読み取り、より適切にまとめ、古典の世界に関する理解を深める。 自己評価する。 授業評価する。</p>	<p>前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 レジюмеの内容を的確に読み取らせ、より適切にまとめさせて、自分の考えを深めさせる。 * 授業中の助言、授業後の面接。</p>	<p>読む能力 レジюмеの内容を的確に読み取り、適切な表現でまとめ、ものの見方や考え方を深めている。 (レジюмеへのメモ記入状況・自己評価票[資料2]・観察)</p>

## 5 成果と課題

### (1) 成果

主体的な活動場面を取り入れた指導による古典に親しむ態度の形成

生徒は、テーマについて、「話し合い」、「調べ」、「まとめ」、「発表する」という課題解決型の学習に、主体的、積極的に取り組んだ。こうした言語活動が、生徒の古典学習に対する意欲を喚起するのに有効であることが再認識された。また、この学習を通して、これまで以上に古典に親しむ態度が形成されたことが、自己評価票の自由記述欄の内容(資料3)から見て取れる。

自己評価の活用による生徒の変容及び授業改善

学習状況を振り返って自己評価させたり、観察による評価を生かして助言や指導をしたりした結果、生徒には従来に見られなかった変容が見られた。ほとんどの生徒が、授業中に調べきれなかったことを放課後図書館で自主的に調べたり、教師に質問したりするようになった。生徒の中には、発表を伴う調べ学習という条件によって動機付けがなされた者もいただろうが、生徒が自己の学習活動の状況を理解することによって、「関心・意欲・態度」が形成された様子が、自己評価票の自由記述欄の内容(資料3)から見て取れた。

第1時に行った自己評価の記入状況を総合的に見ると、〔A：若干名、B：過半数、C：なし〕という結果であった。生徒の中には、ワークシートの記入状況が良好で、授業中だけでなく放課後なども意欲的に課題に取り組みながらも、謙虚さゆえか、あるいは教師に遠慮してかBと自己評価する女子(資料4 1)が目立った。こうした生徒には、実態を踏まえた助言を与えたことにより、次時以降は自己を的確に評価することができるようになった。

また、指導の必要がある生徒(資料4 2)に対しては、授業中に助言をしたり授業後に面接による助言を行ったりした。次時の授業の導入段階においても、前時の自己評価の結果や活動の実態を踏まえて、生徒への助言を心掛けた。この繰り返しにより、生徒は主体的に学習に取り組むようになった。

### (2) 課題

評価方法の工夫

第5時の発表の際に相互評価を取り入れ、互いの発表のよい点を認め合うことで、学習の達成感を味わわせる場面を設けてもよい。

## 参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 国語編(平成11年12月) p104 参照

- |   |                       |                    |             |                  |                   |              |
|---|-----------------------|--------------------|-------------|------------------|-------------------|--------------|
| 1 | 授業の難易度について            | 易しすぎる<br>(0)       | 易しい<br>(0)  | ちょうどよい<br>(15)   | 難しい<br>(8)        | 難しすぎる<br>(0) |
| 2 | 授業の進行について             | 遅すぎる<br>(0)        | 遅い<br>(1)   | ちょうどよい<br>(18)   | 速い<br>(4)         | 速すぎる<br>(0)  |
| 3 | 教師の説明について             | わかりやすくてうまい<br>(20) | まあまあ<br>(3) | あまりうまくない<br>(0)  | わかりにくくて下手<br>(0)  |              |
| 4 | 教師の板書について             | 見やすくわかりやすい<br>(18) | まあまあ<br>(5) | あまりよくない<br>(0)   | 見にくくわかりにくい<br>(0) |              |
| 5 | 教師の熱意について             | 強く感じる<br>(18)      | 感じる<br>(5)  | あまり感じない<br>(0)   | まったく感じない<br>(0)   |              |
| 6 | 授業内容に対する興味・関心について     | とても持った<br>(16)     | 持った<br>(7)  | あまり持たなかった<br>(0) | まったく持たなかった<br>(0) |              |
| 7 | 総合評価                  | とても高い<br>(18)      | やや高い<br>(5) | やや低い<br>(0)      | とても低い<br>(0)      |              |
| 8 | 1学期、古典講読の授業を受けての感想(例) |                    |             |                  |                   |              |

今まで、古典は難しいし、昔の人が書いた文章なんて分かるわけがないと思っていたけれど、古典をじっくりやってみると、そんなことはないんだと実感しました。授業でやった作品の中で、私は「桜の精」がとても好きになりました。最初のうちは読んでも意味が全く分からなかったけれど、授業を通して、内容をしっかりと理解でき、昔の人の恋愛の物語で、とても感動しました。これからはいろいろな話をちゃんと理解できるように頑張りたいと思います。特に、敬語が難しいので、敬語についてもっと勉強したいと思います。

古典は、助動詞とかあって、文章が複雑で、漢字も難しく、読みづらくて大変でした。でも、何回も音読して、すらすら読めるようになったり、主語がなくて、意味が全く分からなかった文章を、辞書で調べたりして、口語訳できたときはとてもうれしかったです。「桜の精」を初めて読んだときは、人物名しか分かりませんでした。授業を通して、なんとか、理解することができました。この物語が理解できたことから、古典をおもしろいと感じるようになり、古典に興味がわきました。

私は、古典講読の授業を受けるまで、古典は難しいだけの授業だと思っていました。しかし、実際に授業を受けてみると、確かに難しいのですが、朗読できたときや、本文を訳し終えて、内容が理解できたときは、とてもうれしくて、その達成感はとてもいいと思います。また、昔の人が書いた物語を読むと、昔の人がどのような考え方をしていたかなどを知ることができて、とても勉強になりました。私は、古典講読の授業を受けて、古典にとても興味を持つことができました。

## 自己評価票 1

資料2

### 第1時限の目標

古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加して、自分たちの調査・考察するテーマを決定する。  
(テーマ設定の理由を明確にすること。)

項 目	評 価		
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければいけないこと・評価の観点について理解できた。	A	B	C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味を持ったことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A	B	C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A	B	C
本時の感想			

## 自己評価票 2

### 第2時限の目標

テーマに応じて資料を収集し、資料の内容から必要な情報を読み取り、整理してまとめ、テーマについて自分の考えを持つ。

項 目	評 価		
1 テーマに応じて資料を集めることができた。	A	B	C
2 集めた資料から必要で適切な情報を的確に読みとり、整理してまとめることができた。	A	B	C
3 テーマについて自分の考えを持つことができた。	A	B	C
本時の感想			

## 自己評価票 3

### 第3時限の目標

調査内容を多角的に分析、判断して、調査してわかったこと、気づいたことを適切にまとめ、ものの見方や考え方を深める。

項 目	評 価		
1 他の班の発表をよく聞いて、調査内容を多角的に分析することができた。	A	B	C
2 班員全員の調査・考察内容を整理して、調査してわかったこと、気づいたことを適切にまとめることができた。	A	B	C
3 テーマについて自分の考えを深めることができた。	A	B	C
本時の感想			

## 自己評価票 4

### 第4時限の目標

他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用し、場に応じた表現を意識して、レジュメ、発表原稿を適切にまとめる。

項 目	評 価		
1 他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用してレジュメ・発表原稿を適切にまとめることができた。	A	B	C
2 レジュメ・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをすることができた。	A	B	C
3 工夫してレジュメ・発表原稿をまとめることができた。	A	B	C
本時の感想			

## 自己評価票 5

### 第5時限の目標

発表者は、発表内容が聞き手に効果的に伝わるようにする。聞き手は、レジュメの内容を的確に読み取り、発表をよく聴いて自分の考えを深める。

項 目	評 価		
1 レジュメの内容を的確に読み取り、自分の考えを深めることができた。	A	B	C
2 他の班の発表をよく聴いて、メモをとることができた。	A	B	C
3 発表原稿をなるべく見ないで、聞き手に伝わるように発表できた。	A	B	C
本時の感想			

## 自己評価票 6

### 第6時限の目標

レジュメの内容を的確に読み取り、より適切にまとめて、自分の考えを深める。

項 目	評 価		
1 他の班のレジュメの内容を的確に読み取り、適切にまとめることができた。	A	B	C
2 他の班のレジュメの内容を理解し、自分の考えを深めることができた。	A	B	C
3 この単元の学習を通して、古典に対して、より興味・関心を持った。	A	B	C
本単元の感想			

## 生徒の感想の例（「自己評価票6」から）

資料3

自分が疑問に思っていたことを、調査・考察・発表する授業をして、毎日遅くまで、図書館やインターネットで調べたりして、とても勉強になりました。いろいろな調査をして、協力して調べたことを、たくさんの人に聴いてもらったり、知ってもらえたことに、一番のやりがいを感じ、達成感も感じました。

今まで古典のことについて、あまり知らなかったけれど、自分たちで調べたり、みんなが調べたことを聴いたりして、昔の人たちのことがとてもよくわかりました。これからの古典の授業では、前よりも、よく考えて口語訳することができると思います。平安時代の人たちの生活などが知れて、とてもよかったです。

今回の授業を通して、自分が興味をひかれたことを、調査・考察・発表することで、普通の授業にはない理解や達成感を得ることができました。これまでは、いつも、疑問に思うことがあっても、深く調べようとしなかったため、これからは、疑問に思ったことは自分で調べようと思いました。

私は、他の班が研究授業で発表した「物の怪」について、興味をひかれました。昔の人が、「物の怪」について、どのように思っていたのか、「物の怪」とはどのようなものなのか、について、もっと知りたいので、「物の怪」がでてくる物語をたくさん読んでみたいと思いました。

自己評価のフィードバックの例

(1) 助言によりの確に自己評価できるようになった例

生徒K 第1時の自己評価

項目	評価
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければならないこと・評価の観点について理解できた。	A (B) C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A (B) C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A (B) C

本時の感想  
 古典講読の授業を受けて、疑問を持っていたことについて積極的に意見を述べる事ができた。自分が中心となってみんなの意見をまとめ、テーマを決定することができたのでとてもよかったと思う。

教師の観察評価：A

- ・学習プリントの記入状況が良好である。
- ・昼休みや放課後も意欲的に課題に取り組んでいる。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、取り組み状況が「充分満足」であることを具体的な言葉で伝えて褒める。

第2時の自己評価

項目	評価
1 テーマに応じた調査を行うことができた。	(A) B C
2 情報の内容から必要で適切な情報を的確に読みとり、整理してまとめることができた。	(A) B C
3 テーマについて自分の考えを持つことができた。	(A) B C

本時の感想  
 調査内容にあった本から必要な情報をきちんと読み取ることができた。また、分かりやすくまとめることができたのでテーマについてよく知り、自分の考えを深めることができた。放課後、図書館で他の本を調べたいと思う。

第6時の自己評価

項目	評価
1 他の班のレジメの内容を的確に読み取り、適切にまとめることができた。	(A) B C
2 他の班のレジメの内容を理解し、自分の考えを深めることができた。	(A) B C
3 今回の授業を通して、古典に対して、より興味・関心を持った。	(A) D C

本時の感想  
 しっかりとメモが取れていたし、レジメの内容もよくまとめることができたので、いろいろなテーマについて自分の考えを深めることができたと思う。今回の授業は、授業中だけではなく毎日放課後、頑張って調べたりしたので、すごく自分のためになったと思う。また、とても印象に残る授業になったと思う。

(2) 生徒・教師共にBと評価した生徒を、助言によりAの状況に導いた例

生徒S 第1時の自己評価

項目	評価
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければいけないこと・評価の観点について理解できた。	A (B) C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A (B) C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A (B) C

本時の感想  
自分の意見は、言えなかったけど、調査するテーマが決まったのでよかったと思う。

教師の観察評価：B

- ・学習プリントの記入状況がおおむね満足できる状況である。
- ・意欲は高くはない。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、より意欲的な取り組みを促す。

第4時の自己評価

項目	評価
1 他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用して、レジュメ・発表原稿を適切にまとめることができた。	A (B) C
2 レジュメ・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをすることができた。	A (B) C
3 工夫してレジュメ・発表原稿をまとめることができた。	A (B) C

本時の感想  
一生懸命やりましたが、まだ最後までまとめることができなかった。けど、なかなかいい感じの発表原稿になっていて思う。今日はバイトなので、明日のこって元々張る。

教師の観察評価：B

- ・レジュメ・発表原稿のまとめに意欲的に取り組んだが、まとめ終わっていない。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、より意欲的な取り組みを促す。

第5時の自己評価

項目	評価
1 レジュメの内容を的確に読み取り、自分の考えを深めることができた。	(A) B C
2 他の班の発表をよく聴いて、メモをとることができた。	(A) B C
3 研究授業という緊張感があふれるなか、自分なりによく頑張った。	(A) B C

本時の感想  
発表を聴いてメモをとったり、レジュメを読んだり理解できた。皆よく調べてあって、わかりやすくまとめたのすごいと思った。やっぱり、研究授業はすごい緊張した。けど、すごい頑張った。

- ・学習への取組状況が改善されたことを褒める。

第2班

源氏物語

葵の上

光源氏は塵世の美貌の持ち主で自分の身分と魅力を活用して多くの女性と恋に落ちた。そのため毒である「葵の上」は多くの女性から恨まれていた。そんな時、葵の上は、六条御息所との車争いで、六条御息所の車を傷つけてしまう。六条御息所は車争いの恨みと自分から光源氏を奪った嫉妬から生霊となり、葵の上にとり憑き彼女を苦しませた。葵の上は男子を出産後、六条木御息所の物の怪のため死んでしまった。

物の怪は悪霊

外から侵入し個人の肉体や精神を奪うもの



昔

物の怪の存在を信じていて病や自然現象を物の怪の仕業と思ひ恐れられていた。

現代

物の怪を非科学的なものとしていたり、物の怪の存在を感じたり意識することがある。

伊勢物語

芥川

昔、男が手に入れられえうもないうちに求婚し続けた。ある夜、なんとかして女を盗み出し、暗い夜道を逃げた。芥川を疲れた時、草の上の露をよめは何ですか？と女が問いかけた。行き先は遠く夜も更けたので、藪に女を押し入れ、男は追手を戸口で警戒していた。男が早く夜が明けたくしりと思っっていると思いが現われて女を一口で食べてしまった。女は「あー」と言ったが男は気付かず、朝になって女の方を見ると女がいなくなっていた。





## 研究を通しての成果と課題

### 1 成果

#### (1) 評価規準を生かしたテストやワークシートによる学習内容の定着

指導の中に評価規準を生かしたワークシートを用いて学習内容を具体的に示したり、小テストで形成的な評価を行ったりしたことによって、学習内容がおおむね定着している状況が確認できた。

#### (2) 言語活動の工夫による主体的な学びや古典に親しむ態度の形成

学習の目標や内容を明確にしたうえで、目標を達成できるように言語活動を工夫して指導に取り入れたことにより、生徒の主体的な学びや古典に親しむ態度が形成された。

#### (3) 言語活動や評価規準の活用による指導の改善

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各言語活動は、国語科の授業の中で日常的に行われている。しかし、必ずしも意図的、計画的な指導の機会として指導計画に位置付けられているとは限らない。本研究では、指導目標や内容を明確にするとともに、古典に親しむ態度を養うために言語活動を工夫して指導計画に位置付けた。また、評価規準を生かして指導目標の達成状況の評価し、さらに評価を指導の改善に生かすように工夫した。これらによって、従来ありがちだった講義形式の指導の改善がなされた。

なお、本研究は古典に関する指導であるので、「読むこと」を中心に評価規準を設定したが、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を中心とした言語活動においても、その活動がどのような力をつけるためのものか、その活動に関する評価規準をどのように設定するか、ということを確認しておくことが肝要である。

#### (4) 自己評価のフィードバックによる主体的な学びの形成

生徒の自己評価の結果を教師が把握して指導の改善に生かすだけでなく、生徒に助言や励ましとしてフィードバックすることによって、生徒自身の学習意欲を高めることができた。

### 2 課題

#### (1) 指導と評価の方法、場面、時期の工夫

指導の改善を図るとともに、評価の信頼性を高めるために、評価の方法、場面、時期についても常に工夫していく余地はまだある。

#### (2) 評価規準の共通理解

学校および教科としての指導目標等を、生徒や保護者に説明するとともに、評価の信頼性、妥当性を高めるためには、評価規準の設定に際して、教科担当者間で共通理解を図ることが大切である。